

弘 前 大 学

学園だより



作品名：「猫ちゃん」 水彩画 サイズ42×59.4cm
制 作：教育学部学校教育教員養成課程 美術専修 1年 折目 紗雪

巻頭言 02 / 特集 新学期を迎えて 04 / CLOSE-UP 研究室紹介 24 / 新任教員紹介 26 / TOPICS 29 / 編集後記 30



Vol.204

June 2022 Summer



学びと暮らし、 ともに充実した 大学生生活を！

弘前大学長
福田眞作

2022年度の新入生の皆さん、ようこそ弘前大学へ！晴れて弘前大学の大学生となられた皆さんに、本学を代表して心からのお祝いを申し上げます。ご入学、誠にありがとうございます。

コロナ禍の下での長く辛かった大学受験という試練を乗り越えて、皆さんは弘前大学への合格を勝ち取りました。大学進学が目的の他者との競争はこれで終止符を打つこととなりますが、決して大学への入学が皆さんの人生の最終目標ではないはずで、他者ではなく内なる自分を競争相手として、自分自身を良く知ることから始め、自分の強み・弱みを自覚し、自信をもって「将来、進むべき道」を決めるための大事な期間が大学生活であり、人生を変える大きな分岐点でもあります。皆さんは、その大事な一步を弘前大学において踏み出すことを選択したのです。皆さんが、どのような情報をもとに弘前大学にたどり着き、何が決め手となって受験・進学を決めたのか、その理由は様々だと思いますが、縁があるからこそ、今、皆さんは本学で学んでいます。縁があって出会った弘前大学が、皆さんの

可能性を大きく開花させる舞台となるよう心から願い、本学教職員を代表してエールを送りたいと思います。

ここで、皆さんが選んだ弘前大学の實力、魅力の一部を簡単に紹介します。近くに娯楽施設が少ないこと、都会の大学に敵わないこともあります。自然の豊かさや人情味あふれる地域住民とのふれあいなど、都会の大学にはない良さがたくさんあります。もちろん、大学での授業内容は充実していて、海外留学、サークル活動、およびボランティア活動など、本学にいても何でも挑戦することができます。また、皆さんが希望する様々な資格も取得でき、卒業生は地元に限らず約7割は県外に就職しており、全国各地で活躍しています。日本経済新聞による「採用を増やしたい大学ランキング」においては、弘前大学が2018年に第1位、そして2021年には第2位に選ばれています。キャンパス内での学びはもとより、地域の方々と地域が抱える課題解決に実直に取り組む経験を重ねた本学の卒業生が全国の企業に就職し、「弘前大学の学生を採用してみたい！」と

思わせる人材に成長しているからこそその評価だと思います。社会に出たときに求められる「人間力」を育むための本学の取り組みが高く評価されたものであり、大変嬉しく思っています。

さて、高校までの生活との違いに戸惑いを感じ、「何を、どうやって学んだらいいのだろう」と、悩んでいる方はいませんか。何でもいいのです、何かにチャレンジすることから始め、高校まで学んだ基礎学力を土台にして最後まで考え抜く経験を重ねてみてください。自ら学んだ知識や汗を流して得た経験は、生きる知恵となり、必ずや未来の皆さんを支えてくれるはずです。知りたい、学びたいという無意識な感覚のままに、これまで関心がなかったことに視野を広げてみるのも良いでしょう。たとえば、新型コロナウイルスのような新興感染症、地球温暖化による自然災害（洪水や干ばつ）、そしてロシアによるウクライナへの理不尽な軍事侵攻など、いま地球上で起こっている出来事はどこかで私たちの日常と繋がっています。社会の動きを地球規模で考える力を養うためにも、現下の世界情勢に目を向けてみてください。

その他、新入生の皆さんに、大学生活の中で取り組んで欲しいこと、お願いしたいことを列記してみたいと思います。第一に、新型コロナウイルス感染防止策の継続をお願いします。新型コロナウイルスが変異を繰り返しており、終息の見通しがまったく立ちません。仮に、この感染症が終息したとしても、皆さんの日常生活がコロナ前の生活に完全に回帰することはないように思います。ウィズコロナの中でキャンパスライフをどう充実させていくのか、正しい情

報をもとに一緒に対応していきましょう。第二に、定期的な情報収集をお願いします。コロナ禍により急速にデジタル化が加速しましたが、弘前大学においても学生さん向けの情報発信に力を入れています。ICT機器をフルに活用して、授業やイベント関連の情報、そして新型コロナウイルス感染症への対応策に関する情報など、大学のウェブサイトで定期的に確認する習慣を身につけて下さい。第三に、困ったときには相談窓口を活用ください。奨学金や生活費、さらに健康面での不安など、新生活で困ったときに相談できる窓口が本学にはたくさん準備されています。相談窓口の連絡先は、各学部の掲示板の他に、学内の意外なところに貼ってあります（座ってゆっくりできる場所です…）。疑問に思ったことや困っていることを相談する勇気もまた、社会生活を営む上で絶対に必要です。「まあ、いいか…」と有耶無耶にしたことで後悔したことが、皆さんにもあるはずです。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という諺があります。気軽に誰かに頼れることも大学生の特権であり、決して恥ずかしいことではありません。社会に出る前に、皆さんの恥をかくことをお勧めします。また、大学の主役は学生の皆さんであり、弘前大学もまた皆さんの存在で成り立っています。弘前大学コミュニティの一員として、教育環境における問題点や大学生活を送る中で改善すべきことに気づいたなら、是非、その声を私たちに届けて下さい。第四に、多様性を理解しあう場面を楽しみましょう。弘前大学にも、日本全国および海外から多くの若者が集っています。生まれ育った地域や文化が異なれば、

考え方や価値観が異なることは自然なことです。皆さんがいずれ飛び出す社会は多様性に富んでおり、お互いの違いを知り、受け止めることが必要な場面が必ずやってきます。大学としても学生寮の混住化を進めるなど、お互いの違いを理解し合える環境の整備を行っています。最後に、特殊詐欺等に注意しましょう。成人年齢を20歳から18歳に引き下げることを内容とした「民法の一部を改正する法律」が4月1日から施行されており、20歳未満であっても成人とみなされることになりました。大人としての自覚を持ち、社会をより良くする活動に積極的に参加して欲しいと思います。また、今回の改正によって、経済的に自立していない皆さんでもカードローンなどの契約を自由に結ぶことができることとなり、特殊詐欺等の被害の増加が懸念されています。被害にあった場合には、早めに専門機関や学内の相談窓口にご相談ください。

皆さんの弘前で大学生活はすでに始まっており、大学での授業や新しい友人との出会いを経験していることでしょう。「あずましい街・弘前市」での暮らしの魅力も大いに楽しんでください。その第一弾として、「日本一の桜」と称される弘前公園の圧巻の桜、弘前城、そして入学式の告辞でふれた冠雪の霊峰・岩木山とのコラボレーションをご覧になったでしょうか。四季折々の色鮮やかな自然の変化や全国的に有名なお祭りの開催など、これから一年を通して皆さんの大学生活に彩りを与えてくれるはずです。皆さんの弘前大学での学びと弘前市での暮らし、ともに充実した大学生活となるよう心から願っています。



人文社会科学部部長

飯島裕胤

卒業生に聞く、

成功の秘訣

— 人文社会科学部の場合 —

学部長

特集

新学期を迎えて

あいさつ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

高校生の面影を残すみなさんも、日々講義で接していると、やはり大学生と感ずります。ズルも、いえ省力運転も早速覚えていきます。授業での質問時間でも、上手に、質問には質問で返されてしまいます。沈黙考、気付けば答えを全部言わされることも、しばしばです。

頭の省力運転は、不自然なことではありません。ベテランの先生に叱られそうですが、ノーベル経済学賞受賞者、D・カーネマンの刺激的なベストセラー『ファスト&スロー』(早川書房)のテーマはまさに、すぎあらば省力運転しようとする脳と人間の行動でした。

ただし、4年間全てをファストに空費してはなりません。折々に、スローな頭で、自分の道を切り開くことも考えるべきです。私の大学生時代にも、3年生の外書講読の授業で、1年生時代のクラスメイトがネイティブのような英語に様変わりして、驚いた経験があります。独力で語学を勉強して、もうすぐ留学すると言っていました。自由な時間を活かして、人知れず大きくなれるのも大学時代です。勉学でも資格でも社会活動でもよいと思います。

さて、今日は卒業生の話をしませう。人文社会科学部では、みなさんのロールモデルとして、30歳代を中心とする卒業生(前身の人文学部卒業生になります)のインタビュー企画を進めています。現在、作家2名、弁護

士3名の方のインタビューをまとめ、HPで公開しています。

お話を伺うと、いくつかの共通点に気付きます。まず、どの方も「自信と謙虚(あるいは素直さ)」が同居しています。

たとえば、推理小説作家の矢樹純さん(1999年卒)ですが、小説第1作が出版されるも売り上げが伸びず、同じ出版社から第2作を出すことが難しい状況に直面しますが、ここでくじけなかったのは、「自分の作品にはおもしろいという自信」があつて、「絶対世に出すべきだ(笑)」と思つた」からと話していました。では他人の話を傾けないかという、苦難のときに編集者の方から聞いた、「月に1作(書くこと)」を1年続けてみて」という言葉を素直に、今も守つて仕事をされています。

自信があるからこそ素直さなのでしょう。信頼できる相手の言うことは素直に信じて、まずはやってみる。そんな感覚と意思です。弁護士の小泉直永さん(2017年卒)も、大学院1年目講義で先生から聞いた言葉の通り、試験対策本などは手を出さず、遠回りにもみえる基礎知識の理解を固めたといひます。

それから「ひたむきさと冒険心」の両立も、興味深い共通点です。インタビューでは必ず「これからの夢は、何ですか」と聞くのですが、全員が「今の仕事の成長」を答えています。「もっと良い作品を」、「弁護士で負けない専門分野を」といったことです。しかし一方で、大学生のとき

からその道を一直線にめざしていたわけでもなく、弁護士の小林裕和さん(2009年卒)は、「会社に入って働く想像ができず」法曹の道をめざし、秋本佳宏さん(2013年卒)は、3年生まで部活のソフトボールが最優先だったそうです。矢樹さんが作家の道に入ったのは、結婚をひかえて「在宅でできる仕事」だから、古矢永塔子さん(2005年卒)は、娘さん用に絵本を書いていたところから、コンテスタ小説を書くことを思い立ちました。

やり尽くしていないことは、やろう。この信条が、時にひたむきに、時に冒険心になるのでしょうか。

最後に、自身の感想を少しだけ述べましょう。毎回「地に足つけて、大空を自由に飛び回っている」印象を、卒業生から強く感じます。

Think Globally, Act Locally (地球規模で思考し、足元から活動せよ)といわれます。考えが広く、発想は自由。でも活動は着実に、努力怠らさず、周囲を大切に——。そんな人に出会ってみなさい。しかも、私たちの前身の人文学部卒業生なのです。

最近の閉塞したニュースの中で、とても清々しい気持ちになります。

文中の卒業生のインタビュー企画はこちらから▼



教育学部長

福島裕敏



「問い」と「答え」の間で育つ

入学おめでとうございます。弘前大学での新しい生活を、いかがお過ごしでしょうか。皆さんの中には、授業を自分で選べたり、自分で好きなファクションを楽しんだり、これまでの高校生活にはなかった自由を謳歌されている方も少なくないかもしれません。逆に必要な情報は掲示板・HP・メールなどにより自分で取得しなければいけなかったり、自分で考え選択することが多かったり、自ら戸惑いを覚えている方もいらっしゃるかもしれません。これは、大学が前提としているのは、予め決まっている答えやそこに至る道筋を正確に再現する「受業者」ではなく、他者（ヒト・モノ・コト）との関わりの中で自ら問いを立て、あれこれと考えやってみて、答えを見いだす「学習者」であることに起因しています。これまでの生活、あるいは卒業後の生活に比べて、時間的・空間的・精神的自由が高い大学生活において、「学習者」として成長していったほしいと思います。

教育学者の大田堯は、今から50年以上前に『「問」と「答」の間』と題する小論の中で、およそ次のようなことを述べています。生物は、外界の事物を自己の中に受け入れ、複雑な化学反応を通じてそれを栄養として自己に同化させると同時に、自分の体を一部解体して外部に排出する異化作用を行うことで生きている。より複雑な心理的過程を発達さ

せている人間は、こうした生物学的プロセスを基礎としながらも、過去や未来という現在目に見えない世界を含む広い範囲の環境から得た情報を、何らかの「問い」として受け止め、知識や経験を引き合いにしなからあれこれと考え、自分なりの「答え」を見いだし、それを自分の物の見方・考え方・生き方の一部に取り込むことで、これまでとは違う自分として成長していく。この「問い」と「答え」の間のプロセスにこそ、教育と学習の本質があり、他者との関わりの中で自律した豊かな人格が形成されていくのだ、と。

大田が、この小論を書いたのは、国家や企業が求める人材の合理的育成・選別を目指す人的能力政策が展開される中、教育もそのメカニズムに組み入れられ、入学試験制度や全国一斉学力テスト等を通じて、一問一答型のテストに象徴される「問い」と「答え」の間を極端に短くする教育・学習のあり方が広まりつつある時代でした。そうした教育・学習のあり方は、現在でも続いているかもしれませんが、一方で、変化が激しく未来の予測が困難な時代と称される現代社会では、変化を前向きに受け止め、答えのない問いに挑戦し、成長し続ける資質能力の育成が求められています。

学校教育法第83条には、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能

力を展開させることを目的とする」とあります。中でも、卒業研究に象徴される「研究 (research)」は、大学教育の中軸をなすものです。この「研究」という言葉は、*res* (再び、強調) と *earch* (探る) から成り立っており、単に探るのではなく、じっくりと何度となく、筋道を立てて体系だった形でしっかりと探ることを意味しています。それは、大田のいう、「問い」と「答え」の間の過程を大事にした学習の延長線上に位置づけるものといえるでしょう。ただし、学術的研究の場合には、これまでの先人たちが積み上げてきた幅広い知見やそれぞれの学問分野に特有の知識・体系的な探究の方法を身につける必要があり、その学びの場が教養教育であり、専門教育なのです。

皆さんにおかれましては、是非、大学生活を通じて、様々な他者（ヒト・モノ・コト）と出会い、「問い」と「答え」の間であれこれとじっくり考え、自分なりの物の見方・考え方・関わり方を豊かにしていただく。また、学問的知識や方法にもとづく「研究」的視点をもとに、他者への想像力を働かせながら、考え・判断し・行動する能力を培ってほしいと思います。大学として、皆さんの「学習者」としての成長を支える環境を提供できるよう努めてまいります。思っています。



医学部長・医学科長

廣田 和美

課外活動の意義

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。一昨年から新型コロナウィルス感染症の影響で、受験勉強においても、かつてない困難を経験されたのではないかと思います。それに打ち勝って合格されたことは、自信になったと思います。人間は、逆境にあつて壁を乗り越えて初めて成長し、乗り越えた人だけに見える世界があります。人生はこの繰り返しですので、今後もどんな困難があつても決して挫けることなく頑張つて乗り越えて欲しいと思います。

さて皆さんは、医学科に入学して、早く立派な医師になりたいという熱い思いを持って、日々授業に臨んでいると思います。医師は、ただ勉強をして知識や技術を得れば良いというわけではありません。ブラックジャックに憧れて医師を目指している人もいるかもしれませんが、現在はチーム医療であり、医師はチームのリーダーとして行動しなければならぬことが多くあります。課外活動では、多くの部員と一緒に何か一つの目標に向かって協力し、切磋琢磨して、その目標の達成を目指します。しかし、部員は個性があり、互いの個性がぶつかることもありません。けれども、一つの目標の下、皆で話し合い、互いを理解し尊重して解決していきます。そうすることで信頼という強い絆が生まれます。これらは、そのまま医師になった後のチーム医療にも繋がることです。

課外活動は、運動系と文化系サー

クルに分かれます。それぞれ良さがあります。まず、運動系サークルですが、医師は体力勝負である部分があり、救命のために徹夜での患者管理が必要になることも良くあります。また、意識がなかったり、動けない患者の移動、体位交換、手術等での長時間にわたる立ち仕事、心肺蘇生術の施行などで、結構体力を必要とします。このため、普段から体力を付けておく必要があります。特に、医師として重要な知識を得るチャンスは、急変時や救急患者対応でのことが多く、それらは時間外で起こることが多いです。それらの対応時に、教科書に書いていない事象を体感し、対処法を体得していきます。勿論、日勤帯の定時患者から教科書的なことを学ぶことが多いですが、私自身は時間外の患者対応から教科書的ではないことの多くを学びました。ですので、体力があれば、その分多くを学ぶチャンスを得ることが出来ます。

次に、文化系サークルです。文化系サークルの良さは、教養教育を受講しなければいけない理由にも繋がりますが、医師は医学だけを学べば良いわけではありません。一般教養が必要です。日本の医師の多くは、医学以外を知らない専門偏重な傾向にあります。が、教養を持たないで海外留学をすると、留学先で頭でっかちの教養のない人と言われてしまいます。これは、私自身の経験ですが、留学先で教授宅に招かれて、講座の

准教授や講師の方々とは会食をした時に、話題はいつもクラシック音楽、オペラ、美術などの芸術や文学、歴史、スポーツに関するものであり、医学について食事中に話すことは殆どなかったです。それを知って、私は非常に恥ずかしくなり、留学中に全く知識のなかったオペラの本を読んだり、美術館に行くようにしたりしました。一般教養が、生活を豊かにすることを、是非知って欲しいと思います。

弘前は、四季折々に祭り（春…日本一の桜祭り、夏…ねぶた祭り、秋…菊と紅葉祭り、冬…雪燈籠祭り）があり、一年を通して自然を楽しめますし、歴史と文化のある街でもあります。是非、都会の喧騒を忘れ、自然の豊かさを実感しながら、歴史と文化に触れながら、勉学並びに課外活動に勤しんで下さい。





齋藤 陽子

医学部保健学科長

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保健学科へ皆さんをお迎えすることができ、大変嬉しく思っています。入学式で希望にあふれる皆さんたちの姿を見て、改めて歓迎の気持ちが強まりました。皆さんは約2年間、高校での学習や入学試験において新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け大変な経験・思いをされた事と思います。その中でたゆまぬ努力をし、弘前大学へのご入学を果たされたことを心から祝福すると共に敬意を表します。入学時の気持ちを忘れずに、充実した学生生活を送ってください。皆さんが卒業時に「弘前大学に入って良かった」と思ってもらえるように、保健学科の教職員一同サポートをしたいと思っています。

ここ弘前市は、おいしいリンゴの産地として大変有名ですが、欧米では、リンゴが大学や教育のシンボルとされている事を皆さんはご存知でしょうか。リンゴを輪切りにすると中心の種のあるところが星型に見えるので、リンゴを輪切りにするのを「スターカット」というのだそうです。リンゴと同じように、皆さん一人一人の中にも将来星のように輝く素質が秘められており、その素晴らしい素質を見つけ、磨き、光り輝くように導くのが教育や大学の役割であるため、リンゴが教育のシンボルとなったそうです。私達教職員は、皆さん一人一人が素質を伸ばし、新

しい時代を担う立派な卒業生として巣立っていきける様に精一杯指導や手助けを致しますので、皆さんも自分の目標を持ち努力をしてください。

保健学科は医療系専門職の教育を行う学科ですので、皆さんはそれぞれの専門職の資格取得を目指して学業に取り組みることになります。各自が目指す専門職の国家試験を受験するためには卒業までに必修科目である講義や実習等の単位を沢山取得しなければなりません。国家試験は資格試験であり競争試験ではありませんので、是非、合格率100%を目指して互いに助け合いながら学業に励んでください。また、コロナ禍

悩んだり考えたりすることも成長に繋がると思いますが、一人で悩まず、友人や家族、あるいは教職員にも相談してください。また、周囲にその様な人がいたらそっと寄り添い話を聞いてあげてください。無理をして自分を追い詰めず、時には立ち止まる勇氣を持ってください。

による制約はあるものの、部活動、サークル活動、ボランティア活動など、学業以外の活動へ皆さんの能力を余すところなく発揮し、多くの経験を積み、沢山の思い出を作ってくださいと思います。大学時代は人生の基盤形成に大きな役割を果たす時期であるといっても過言ではないでしょう。ぜひ他の専攻や他学部の友人も作り、職種によるアプローチや考え方の違い、また患者さんや一般の方の気持ちも理解できる、広い教養や見識、思いやりの心を身につけていただきたいと思います。幸い、保健学科の隣には附属病院や医学部校舎がありますし、保健学科には専攻や学科を超えて履修出来る科目もあります。是非、横のつながりを作ってください。一方で、学生生活においては、悩むこともあると思います。

新型コロナウイルス感染症の流行は世界中に大きな影響をもたらしましたが、特に教育や医療や介護などの福祉の領域では非常に大きな影響を受けています。皆さんの多くは将来医療施設に就職すると思いますが、その医療施設では、患者さんや職員がウイルスを病院に持ち込まないように、万が一ウイルスが持ち込まれても病院内で感染を拡大させないように、様々な対策を講じています。保健学科学生の皆さんも、医療施設などでの実習を行うため、他の学部の学生さんよりも多くの制約をお願いすることがあります。将来医療職者として働く事に備える意味でも、その趣旨を良く理解し協力ください。

新入生の皆さんの学生生活が実りあるものとなることを祈念し、学科長からの歓迎の言葉とさせて頂きます。

新入生の皆さんへ

医学部心理支援科学科長

玉井康之



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの心の中にはいろいろな思いがあるかと思いますが、気が早いかもしれませんが、4年間はあっという間です。6年間は小学校の6年間並みに大きな変化があるでしょうか。いずれにせよ、大学生活の後、大学院に進学される方を除いて、社会に入っていくこととなります。現在の大学は昔に比べてとても親切ですが、社会においては、自ら考え、判断し、実行していくこと、相手を気遣う能力が求められます。近年では「不寛容社会」と言われるように、良い意味でのおおらかさの減少、「させていただきます」表現の増加があり、学生と社会人が置かれる状況のギャップがむしろ大きくなっているように思われます。

自ら考え、判断し、実行していくことは、座学ではなかなか実感しにくい事柄です。少し触れることができるのは、演習や実習、ゼミでしょう。ですから、アルバイト、サークル活動、ボランティアなどの活動での体験も貴重なものとなり得ます。失恋や失敗もその後の人生における貴重な教訓になります。むしろ、失敗体験の方が、その人を成長させると言ってもいいでしょう。ただし、失敗ばかりすればよいというわけではなく、失敗という、どちらかと言うと、忘れてしまいたかったり、なかつたことにしたかったり、誰かや不運のせいにしたかったりするものに対して、どこまで「我がこと」として向き合えるかということかと思えます。このことは心理療法過程において、本人がどこまで自分に向き合えるかということも共通することと思われまふ。具象的には、以前、ある国で高速鉄道の車両が脱線、高架

から落下したことがありました。世界中の注目を集めました。当局はなんと、その車両を地中に埋めてしまいました。これではなぜ脱線したのか原因を追求する貴重なデータが失われ、次に同じような事故を防ぐことが困難になってしまいました。

経営の神様と言われる松下幸之助の言葉に、
誰でもそうやけど、反省する人は、きつと成功するな。
本心に正しく反省する。
そうすると次に何をすべきか、何をしたらいかんかということがきちんとわかるからな。
それで成長していくわけや、人間として。

現在の2輪、4輪メーカーのホンダの創業者である本田宗一郎の言葉に、
・ 進歩とは反省の厳しさに正比例する。
・ 人を動かすことのできる人は、他人の気持ちになれる人である。
・ その代わり、他人の気持ちになれる人というのは自分が悩む。
・ 自分が悩んだことのない人は、まづ人を動かすことはできない。
・ というものがあります。

ピオン (W.R. Pion: 英国の精神分析家、第1次世界大戦に従軍)の言葉に、
戦争においては、敵の目的はあなた方をひどく怖がらせてきちんと考えられなくすることです。一方あなたがたの目的は、その状況がどんなに逆境で恐ろしいものであろうとも、きちんと考え続けることです。その考え方の基底にあるのは、明確な思考は「現実」に気づくことや何が本当なのかを適切に判断するのに、より助けとなるということです。けれども、現実に気づく事は不快なものに気づくことを含んでいるでしょう。というのは、現実はずしも心地良かつたり、喜ばしいとは限らないからです。これは、人であれものであれ、科学的探究全てに共通します。(「ピオンとの対話」そして、最後の四つの論文「ウィルフレッド・R・ピオン著、祖父江典人訳、P136、金剛出版)。
・ というものがあります。

と、ここまで書いてきましたが、昨今の世界状況を見ると、2つの世界大戦と原子爆弾投下を経験してきた私達人類が、「失敗から学ぶ」のは至難の業のようです。しかし逆に、比較的最近のものとしては、MRSA (Methicillin-resistant Staphylococcus aureus: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)・HIV (Human Immunodeficiency Virus: ヒト免疫不全ウイルス)への対応策が改善してきた実績もあります。

再び、本田宗一郎の言葉を引用すると、
・ 私の最大の光栄は、一度も失敗しないことではなく、倒れるごとに起きるところにある。
・ 成功者は、例え不運な事態に見舞われても、この試練を乗り越えたら、必ず成功すると考えている。
・ そして、最後まで諦めなかつた人間が成功しているのである。
・ 何やら名言紹介番組のようになってしまいました。キャンパスライフを充実したものにしてください。

理工学部長

岡崎雅明



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学して3カ月ほどが立ち、大学での生活に順応できているでしょうか。私自身のことを思い出しますと、入学当時、友人がすぐにはできず、慣れない一人暮らしで疲労が蓄積したためか、ゴールデンウィークあたりに急性胃腸炎にかかり、メンタルにも悪影響を及ぼし、5月病にかかってしまった記憶があります。大学生活を送るためには、心身ともに健康な状態を保つことが重要です。不安に感じることなどありましたら、友人、教職員、保健管理センターをはじめとする相談窓口にて相談してみてください。

弘前大学では入学後、スタディスキルを含む教養教育を行っています。国際共通言語である英語は8単位分、リーディング、ライティング、リスニングおよびスピーキングの4技能について学んでいきます。これまでは、日本語を通して多くのことを学んできましたが、これからは英語を通して理解し、論理的に思考していくことが求められます。最先端の研究の多くでは、英語により成果が公表されており、卒業研究および大学院での研究では英語の学術論文を読みながら、進めていくこととなります。また、新しい研究成果が得られた場合には、世界に発信することが必要であり、英語にて学術論文を執筆することが求められます。エレガントな表現により小説を書くわけではないので、科学技術論文を書く英語力

は高等学校までに既に学習しており、できるだけシンプルで一義的に意味を規定できる表現で書いていきます。是非、教養教育において、目的意識を明確にして、英語のリーディングおよびライティング能力の向上に努めていただけたらと思います。高等学校までに、持続可能な開発目標SDGsを学習したかと思えます。これらの目標を達成するためには、分野横断的なアプローチが必要不可欠であり、国際的な共同研究にて、研究開発が進められることが少なくありません。つまり、専門分野およびバックグラウンドが異なる研究者間にて、自由な発想に基づく議論を展開していくためには、英語によるコミュニケーション能力が必要不可欠です。本学には、イングリッシュ・ラウンジという先進的な言語自主学習施設が総合教育棟に設置されていますので、セミナーなどに積極的に参加してみることをお勧めします。

政府にてA1戦略2019が策定され、「数理・データサイエンス・AI」の基礎をデジタル社会の「読み書き・そろばん」として、全大学生に教育していくこととされています。弘前大学においても、今年度より教養教育において基礎レベルのデータサイエンス科目(2単位)を必修化し、応用基礎レベルの選択科目(4単位)を新設しました。人口知能(AI)は人間の創造的な研究・開発をサポートするツールであり、所属する学科・コースに関係なく、この新しい分野

を積極的に学修していただけたらと思います。

大学での授業に順応できず、とまどいを感じている方はいないでしょうか。大学の授業は能動的な学修を基本としており、教室内での座学にて完結するものではありません。先生方からの授業を一つのきっかけとして、自分の中でその学問領域の内容を反芻し、体系的な理解を深めていってください。授業時間外の学修は必須です。何が理解できていないか明確にするためにも、友人あるいは教員と議論する過程は重要です。図書館に所蔵されている専門書を読みこんでみることも良いと思います。このような縦の学びにより学問を体系的に理解するとともに、自らの興味および社会的課題に応じて分野横断的な学びを横に展開することで、学問をより広く深く理解することができます。大小に関係なく、課題を自ら見出すことで設定し、ゼロからイチを創造する一連の過程を、是非、経験し楽しんでほしいと思います。弘前大学での学生生活が実りの多いものとなることを願っております。

大学での学びについて

何かを 見つけましょう



農学生命科学部長

東 信行

新入生の皆さん、弘前大学へそして青森県によろこそ。

様々な思いを持って弘前の地をふまれたり大学の門を通ったりされたことと思います。これから4年間あるいは6年、もしかするとそれ以上の貴重な10代後半から20代を過ごすこととなりますので、良い思い出作りとともに精一杯成長してください。コロナ禍で高校時代に思うような活動ができず不完全燃焼だった方もいらっしゃると思います。まだその影響は消えてはいませんが、大学も社会もこの状況にかなり適応してきていると思いますので、大学生時代は思い残すことがないように、積極的（かつ慎重）に日々を過ごしてほしいと思います。

私は動物行動や生態の研究者になりたいと思います。大学に入りました。1年生のときには大学生協の専門書のコーナーで立ち読みをして、お金が貯まったら買ってはむさぼり読む。とはならず買っては安心して野山をバイクで走りまわり、なまの自然に触れていたように思います。しかし、なけなしのお金で買った本の中には、非常に興味を持てる本がたくさんありました。日本の若手研究者の自分自身の最新研究を一般向けに執筆したもの、古典的な名著などなど、買ってしばらくしてから読むと、一気に引き込まれたものがたくさんありました。中でもE.O.ウィルソンの「社会生物学」やR.ドーキンスの「利己的な遺伝子」（当時の邦題

は「生物の生存機械論」は生物の進化を考える上で非常にセンセーショナルなもので、個人的にも大変な衝撃を受けた書籍であり、半世紀近くたった今でも十分に読みごたえのあるものです。大学1年生のときにきちんと理解して読んでいたかどうかははなはだ怪しいですが、世界中の研究者の議論の中に少しか自分も入れたような気分にはなっていました。その後専門課程に入り大学院に進学すると、本を読む機会が減り、目に入ってくる文字としては論文を見ていく時間が圧倒的に増えました。しかし、大学生のときに読んだこれらの本は、私の人生に深く刻まれ、今に至っているような気がします。

大学時代は人生の中でも大きな転換点にあります。良い出来事も良くない出来事もあるでしょう。それらの出来事1つ1つが、自らを成長させてくれるのです。頑張ったり悩んだり、少し休むのも良いでしょう。趣味でも勉強でも部活でも夢中になれるものを1つ見つけること、それが大学時代にはあったほうが良いですね。

弘前大学には様々な個性的な先生たちがいます。同じ「先生」でも高校の頃までの先生とは少々キャラクターが違うかもしれません。それはすべての「先生」が研究者だからかもしれません。農学生命科学部では農業や生命科学はもちろんですが、食や環境にかかわるプロフェッショナルな先生たちが多数いらっしゃいます。

ます。そしてもう一つ、同じ方向に興味を持って大学に入ってきた同級生、先輩・後輩との出会いがあります。もしかすると一生涯の付き合いになるような大切な出会いもこの数年間であるかもしれません。

青森に住んでいると、地元で生産された大変美味しい果物や野菜、水産物・畜産物が学生のうちから手に入れることができます。これらにはそれぞれ生産者がいます。また、白神山、十和田・八甲田、岩木山などの山々、4つの異なる顔を持つ海やたくさんの河川、湿地、草原には、多種多様な生物もいます。手に届くところに見るべきものがあることに気づいて、いろいろな発見をし、一歩一歩前進してほしいと思います。そして、自分の中にある何かも見つけてほしいです。

いづれ皆さんがプロフェッショナルとして輝き（いぶし銀でも良いです）、社会で活躍されることを期待しています。

春爛漫の総合教育棟・中庭



特等席で休憩してみては？

手が届きそう…



桜の香りに包まれて

花の明るさに誘われて





文化創生課程

清藤 祐矢

初心忘るべからず

校内に堂々と佇む桜の木が満開の花を咲かせ、コロナ禍という厳しさの中に在りながらも華やぐ春の訪れを感じられるようになりました。入学から着実に歩みを進めた大学生活は、早いもので約1か月の月日が過ぎました。ようやく大学生活にも少しずつ余裕が生まれてきたように感じます。

ふと講義室に友人と向かう時、受験当日の会場に向かう自分の姿を思い出すことが有ります。どんなに苦しくつらい時でも、家族や高校の先生方への思い、同じく弘前大学への思いを背負った受験生とこの門を叩いた思い出。弘前大学に入学するために必死になって受験勉強をした瞬間に思いを巡らせます。

新入生となった今、深い感謝と共に、これからも失敗を恐れず大学生活を充実したものにするため、より一層の努力しようという強い決意を持ちました。今も新型コロナウイルスの影響により厳しい時期が続いています。普段何気なく過ごしている対面授業やサークル活動、課外活動など、その全てをより大切にしたいと思います。そして、限りある大学生活の中で、支えてくださった方々への恩返しを忘れず、卒業の時学友と胸を張って迎えられようすべてに関して努力を続けたいと思います。



社会経営課程

蝦名 来

弘前大学の一員として

「大学は人生の夏休みだ」とよく聞きますが、案外そうでもないなと感じています。大学生活は、講義や課題もそれなりにあり、空きコマなどの自由な時間があってもゲームをしていたらあっという間に過ぎます。そのため、夏休み特有の時間を浪費しているという感覚があまり湧きませんでした。しかし、のんびりとした今の生活と高校時代を比較して、現状に危機感を抱くことができました。大学では専門知識を学ぶことによって、漠然としていた目標が少しずつ明確になります。それと同時に、その目標のためにしなければいけない勉強が出てきます。私は、目標のために時間を有効活用し計画的にそれらの勉強をしたいです。一人だと長続きしませんが、弘前大学で共に学ぶ仲間が刺激になり、努力し続けられると実感しています。

また、「主体的に考える」ということを常に意識したいです。高校では、提示された問いに対して決められた手順で答えをだすだけでした。しかし、大学では自分で課題をみつけ解決する力が求められます。なんとなくで動くのではなく、自分から論理的に考え行動していきたいです。

以上のことを踏まえ、たくさんの人と出会い、楽しく充実した大学生活にしたいです。



社会経営課程

山田 有亮

大学生になって

弘前大学の生徒となって約1ヶ月が過ぎ、私も含め周りの友達も大学での生活に慣れてきたように思えます。勉強や一人暮らし、友達づくりなどの入学前の不安要素は徐々に無くなっていき、高校とは違った雰囲気での授業も楽しく受ける事ができています。

私はこれからの大学での重要な4年間を有意義なものにするために、専門分野外の学習が必要だと考えています。自分の学部の教科の学習ばかりをするのではなく、自分の専門外の科目に力を入れて学習することで知識の幅が広がり、専門分野での学習がより一層捗ると思います。ちなみに私は社会系の科目を中心に学習しているのですが、教養としてウイルス学を学んでいて、そのおかげで近年社会に影響を与えているコロナウイルスについて知る事ができるため、「社会」と「ウイルス」の学びを関連づけてより深く学習できています。

また、勉強とは別でサークルやバイトなど先輩や大学外の人たちと交流する機会を多く持つことでコミュニケーション能力を身につけ、社会に出た際どんな状況でも柔軟に対応できるようにしたいと考えています。

弘前大学での様々な活動や経験、友達や先輩との関わりを大切にして後悔の無い充実した大学生活を送りたいと思います。



文化創生課程3年
 工藤 夢子

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはそろそろ慣れた頃でしょうか。皆さんは新生活に対する不安とキャンパスライフへの期待を抱きながらご入学されたことかと思えます。私が一年生の時は、新型コロナウイルスが日本国内で流行し始めた年で、4月になっても授業が始まりませんでした。ようやく始まった授業もオンラインだったため、人との交流がほとんどなく、人間関係に苦労したのが印象的です。

大学4年間というのはこれまでの学校生活に比べて自由な時間がたくさんあります。自分次第で充実した4年間になるか中身の無いものになるか決まります。少しでも興味のあることにはどんどんチャレンジするべきです。勉強、サークル、アルバイト、趣味などなど…。自分に合わなかったらやめればいいし、楽しかったらどんどんそれを突き詰めていきましょう。さまざまな活動にチャレンジすることは、自分について深く知るきっかけになります。自分について知っているということは、就活や社会に出てから必ず自分の強みになります。皆さんにはぜひ大学生としての4年間を自分追求のために当ててほしいです。

大学生活に正解などありません。皆さんが自分なりに楽しく充実した生活を送れることを願っています。



社会経営課程3年
 五十嵐 大智

「好き」の追求

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まって、1ヶ月程経過したと思われませんが、如何お過ごしでしょうか。

大学での講義、大学生としての生活は、昨年度までと比べ劇的な変化を遂げたと感じる方もいるかと思えます。個人的に、高校までは人間としての基盤を固め、社会で生きていく力を育む期間、大学は自分の興味のあることや、やりたいことをとことん突き詰める期間だと捉えています。

義務教育として、テストで良い点を取る為の勉強ではなく、興味のある学問について深い所まで知ることができるのが大学の勉強の楽しさだと思います。勿論単位という一種の枷はありますが、それに囚われる事無く楽しく講義を受けられる人は、高校までの授業と比べても面白く感じられるでしょう。

講義外にも、サークル活動やアルバイトを初めとして、今までとは比べ物にならない程挑戦への選択肢が広がっています。折角大学生になったのですから、今のうちにやってみてほしいと思ったことにどんどん取り組んでいった方がとてもお得です。

自分のやりたいことは何かと向き合い、自分に正直に大学生活を送ってください。良い大学生活になることを願っております。



社会経営課程3年
 下山 諒夏

大学生活で重要なことは？

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学の授業や新生活にはもう慣れましたでしょうか。学内で皆さんを見かけると、2年前の自分を思い出します。私からは、これまでの大学生活を振り返って考えた事を2点お伝えしたいと思います。

1つ目は、やりたいことは躊躇わずにすぐ実行すべきであるということです。やりたいことがあるのに準備が整うまで取り組まないのは時間がもったいないですし、せっかくの機会を逃してしまうことになるかもしれません。コロナ禍でまだまだ不自由な部分もありますが、皆さんには後悔のないようやりたい事を思い切りやってほしいと思います。

2つ目は、物事に取り組む際には目的意識を持つことが重要であるということです。「この講義では〇〇について理解しよう」とか「この説明会では絶対に質問するぞ」というように自分に小さなミッションを課すことで、自分が今何をすべきなのかを明確にすることが出来ます。こうするようになってから私は、授業の内容がすんなりと入るようになりました。

私の大学生活での反省点でもある、以上の2点を皆さんも意識してみてください。皆さんの大学生活が楽しく充実したものとなることを願っています！



学校教育教員養成課程

小池 優大

弘前での新生活が始まり

弘前大学に入学し、早1ヶ月が経ちました。新たな友に恵まれ、また、自然豊かな環境で過ごすことができ、改めて弘前大学の一員になれた事を嬉しく思います。

千葉から出てきた私にとって、大学生生活の初めは1人きりで、新しいこともたくさんあり大変でしたが、温かな先生方や先輩方のおかげで徐々に慣れ始め、日々楽しく過ごすことができています。

授業が始まり、自分の学部の専門科目はもちろん将来につながることで、教養科目でも様々な学部の人と関わることが出来るため、自分の視野を広げ、また様々な考えに触れることができるので、とても自分のためになっていると感じています。また、1年生の頃から実習として実際の現場である学校に行く事ができ、学年が上がるにつれてその機会も増えていくのはとても嬉しい事だと感じています。このようなありがたい機会をたくさん提供して下さっているので決して無駄にする事無く、積極的に取り組んでいき、4年間を通して幅広い知識、対応力などの教員として欠かせない力を身に付けていきたいです。そして、将来児童に寄り添い、共に成長していく事が出来る素晴らしい教員になれるようこれから努力していきたいと思います。



学校教育教員養成課程

中村 元紀

総合レジャーランド

長引くコロナ禍にウクライナ侵攻などイレギュラー続きの今春、小中高と弘前で過ごした生粋の“ツガリアン”の私は、かねてからの夢である社会科教員になるべく、弘前大学教育学部の門を叩いた。

「大学は総合レジャーランド」。これは高校卒業時に演劇部の顧問から贈られた言葉だ。大学に入学してひと月少々経った今、私はようやくこの言葉を自分なりに解釈し始めた。

弘前大学に入学して、私には多くの新たな仲間ができた。皆との会話を楽しむことは、最近のマイブームとなっている。弘前大学に入ってから見つけた新たな学びもある。English loungeやスペイン語とラテンアメリカ文化の授業を通じて、外国語や外国の文化を学ぶのが毎週の楽しみだ。楽しみといえば、安い、美味しい、早い三拍子揃った学食にもまた取り憑かれている。サークル活動では、お笑いサークルで漫才に挑戦し、YouTubeで発信することに全力投球だ。

なるほど、教員になるための勉強をするために弘前大学に入学したが、大学はこんなにも幅広い経験ができる場なのだ。それはまさしく「弘前総合レジャーランド」。めでたく手にした本園の4年パス、沢山のことに挑戦して多くを学び、有効に使っていきたいと思う。



養護教諭養成課程

杉 日菜子

大学生の自覚を持って

弘前大学に入学させていただき、約1ヶ月が過ぎました。実際に弘前市に住み始め、地域の方々、教授、先輩、新しくできた友達など、周りにいる方々の温かさや自然の豊かさを感じ、少しずつではありますが大学生活に慣れることができました。弘前市に住む方々は本当に優しい方が多く、この街で地域の人達に触れながら大学生活を送ることによって、より生徒の気持ちを考えながら周りを見て行動することができる養護教諭になれるのではないかと思います。

私は、大学生になると共に、成人を迎えました。自由にできることが増えた反面、自分自身で考え、選択しなければならないことも増えました。これからは、自分の行動に責任を持たなければなりません。私の目指す学校教員という職業は、子供たちを学校で預かるという責任感を持つことがとても大切だと思うので、これからの大学生活では、自分の行動に責任を持てるよう心がけたいと思います。弘前大学で学習するにあたって、養護教諭としての専門性を高めることはもちろんのこと、人との関わりを大切に一人の人間としても成長できるように4年間頑張っていきたいと思います。


 学校教育
 教員養成課程3年

福士 萌々子

新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。この1ヶ月ほどの新たな学びの日々はどうでしたか。楽しかったことや嬉しかったこともあれば思ったようにいかないこともあったのではないのでしょうか。しかし、そこまで独りで頑張りすぎず助けてもらったり頼ったりすることも1つの手段だということを忘れずに、自分らしく過ごしてみるのも良いと思います。その中で人との繋がりを感じ、それを大切にするといつの間にかかけがえのない仲間や友人ができてはいるはず。他人の力も借りながら自分を、そして自分を支えてくれている人のことを大切に生きてください。

さて、私が大学生生活で意識してほしいと思っていることは「目標を持つこと」です。大きなものでなくても、例えば「単位を落とさない」「課題をすべて出す」などの小さいものでも良いです。そんなの当たり前かもしれませんが、当たり前を「欠かさずに」当たり前に行うことができるのは立派な能力です。目標は原動力です。目標をもってそれに邁進すればきっと成長し、何かを成し遂げられると思います。

それぞれがそれぞれのペースで頑張ってみてください。みなさんの大学生活がより良いものとなるよう願っております。


 学校教育
 教員養成課程4年

森 春菜

新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい土地、環境での生活に期待とともに大きな不安も抱えて入学したと思います。これからもまだまだわからないことがたくさん出てくるとは思いますが、周りの人達と協力して、時には先輩や先生方にも遠慮せず頼ってください。

さて、人生の夏休みとも言われる大学生の時間をみなさんはどのように過ごすでしょうか。高校よりも時間に余裕があり、やりたいことに費やせる時間がたくさんあります。その時間を有意義に使い、卒業するときに、これはがんばったと胸を張って言えるものをぜひつくってください。勉強や趣味、部活やサークル、アルバイトなど、どんなことでも必ず自分の糧となります。やりたいことにどんどんチャレンジして目一杯自分を磨いていってください。

そして、その中で学内、学外でも様々な人たちと出会うと思います。その中には自分を成長させてくれる人や心の支えとなる人もいることでしょう。そういった人との出会いを大切に、様々な価値観に触れながら多くのことを学んでください。

4年という時間はあっという間です。まだまだコロナ禍が続くそうではありますが、後悔が残らないよう楽しく充実した大学生活を送ってください。


 養護教諭
 養成課程3年

伊藤 かれん

様々な経験を

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい生活が始まってから数カ月経ち、少しずつ慣れてきたころではないでしょうか。

突然ですが、みなさんは大学でしてみたいことはありますか。私からはこの場をお借りして、大学生活での時間を使い方についてお話をしていきます。私は高校生の頃から「大学生のうちに全国をまわりたい!」という夢があります。その夢を叶えるためにこの前の春休みは一週間九州と屋久島へ一人旅してきました。初一人旅は不安でいっぱいでしたが、きれいな景色や食べ物、見知らぬ人との交流、そして親切な心に触れることができ、とてもいい旅になりました。大学生は社会人とは違ってたくさんの自由な時間があります。特に夏休み春休みはなにかを始めるチャンスです。私のように旅行をしてもいいし、留学やボランティア活動など、やってみたいことを始めてみると思います。新しい発見がきっとあるでしょう。しかしながら大学生活はあっという間です。講義や課題、部活動、アルバイトに追われる日々で気がつけば1年が終わっています。コロナ禍で多少の制限はありますが、有意義で刺激的な大学生活をみなさんが過ごせますよう願っています。



医学科

大西 響汰

大学生生活の抱負

弘前の寒い春に未だに慣れないまま、入学してから1ヶ月が過ぎようとしています。自然に恵まれたこの地で学べることに感謝して充実した6年間を過ごしていこうと思います。

私はこれからの6年間、勉強だけでなく部活動にも力を入れようと思います。それは私が中学、高校とラグビー部で活動し、高校三年時には花園にも出場した経験から、部活動には授業だけでは学べないことや身に付けられないものがたくさんあったと実感しているからです。

部活動を通じて体力や忍耐力を身につけることはもちろん、良い人間関係を作るために必要なことや、チームビルディングの方法を学ぶことは現在様々な職種の人々と連携をとりながら治療を進めていくことが求められている医師にとって大きな助けとなると思います。また医師が主体となって、円滑に治療を行える良いチームを作ることは、より多くの命を救うという医師の社会的責任を果たすことにもつながるはずです。

大学生生活の6年間は長いようであるという間に終わってしまうとも言われるので、1日1日を大切に、勉強にもスポーツにも妥協することなく取り組み続け、最後は胸を張って卒業できるようにしたいです。



医学科

紅林 寛太

弘前大学の一員として目指すもの

弘前大学医学科に今年度入学させていただいた紅林寛太です。自分が弘前大学の一員として目指すものは、授業や試験といった学生の義務を果たしつつ、大学生としての様々な経験を積むことです。

その理由としては、将来医師として働く上で、ただひたすらに机に向かい、医師としての勉強のみ行うというのは望ましい姿ではないと考えていることがあります。このような形では、視野の狭く、考えの浅い医師となってしまう、より良い医療を提供できるようになるとは到底考えられません。これは、半社会人、半学生という位置にある大学生において、医学科のメンバーのみでなく、他の学部学科においても同様の姿勢が求められるものと捉えています。

こう書くと意識の高い変人だと思われるかもしれませんが、具体的に様々な経験の内容を開いていくと、例えば他学部の方と普段から関わりを持ったり、友人と旅行をしたりといった、大学生らしい生活を送りたいということになります。

ぜひ、弘前大学の仲間同士、互いに広く関係をもち、自分の視野を広げ、より良い社会人としての資質を高めあっていきましょう。

先輩方、先生方も、我々を弘前大学の一員として受け入れ、様々なことを教え、後輩を導いてってください。



医学科

中林 瑛南

弘前大学で過ごして

全てに期待しつつ不安でもあり、と目まぐるしかったはずの新生活にいつの間にか慣れ始めていることを少し寂しく思います。それでもなお、多様性に溢れた大学という場で触れる色々には新鮮さを感じ続けていて、本当に毎日が楽しいです。その新鮮さが止むことのない六年間にしていきたいです。

私は人が好きです。人と出会ってその人の価値観を知ることが、それまでの自分を振り返るきっかけにもつながります。大学においてもその経験を重ねて、対人能力を育てながら自分らしさを追求したいです。それは無事に医師になれた時に自身の支えになってくれると考えます。

私は弘前で生まれ育ちました。大学では津軽弁がマイノリティで、不思議な感じがしています。今までのさくらまつりでは屋台が私にとっての一番の楽しみでしたが、今年は初めて見る弘前の桜に感動する友人たちのおかげで、「こんなに綺麗だったんだ」と改めて気づくことができました。とても素敵な体験でした。私は弘前が大好きで、紹介したい場所もありますし、一方で通ったことのない道もまだまだたくさんあります。私も知らない青森県を、大学で出会う友人と一緒にもっと見つけていきたいです。



医学科 2年

秋田 貴士

新入生の皆さんへ

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。新学期が始まってから2ヶ月が経ち、初めての大学生活にも慣れ、一人暮らしを始めた人も生活のリズムが掴めてきた頃ではないでしょうか。今年は昨年よりも課外活動における活動制限が少なくなり新入生と会える機会が多くうれしく思います。

さて、大学の授業に慣れてきたところで大学生としての生活をより一層充実させるために、私が一年を通して感じたことについてお話ししたいと思います。新入生のみなさんは、入学時より先生方から大学は自ら学ぶ場所だという話を聞いてきたと思います。私は、初めてこの話を聞いた時大学における勉強の話だと思っていました。しかし、一年生活を送った今言えることは、大学での学習の幅は、勉強面にとどまらず、友人関係や、生活面、時間の使い方から、社会に出るために最低限必要なマナーの習得など非常に多岐にわたることです。大学では、大学にいる時間は、誰とどこの席で講義を受けるか、誰と昼食を食べるか決まりはなく、時には講義の時間さえも自由です。大学での講義が終わった後も、アルバイトをする、サークルや部活動に参加する、友人と集まって遊ぶ、1人の時間を過ごす、帰って寝るなど選択肢は無限です。特に一年生の間は、自由に使える時間が多いのでぜひ新たなことに挑戦して多くの経験をしてください。



医学科 2年

藺田 和奏

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まり、弘前大学にも慣れてきたところでしょうか。私からは大学生活の中でやってほしいことについてお話ししたいと思います。

一つ目は人間関係を広げることです。大学では情報は自分で収集しないといけないので人間関係はとても重要です。部活やサークルに参加するなど交流を広げられる場に積極的に参加するとよいと思います。試験や授業についてなど情報は多いほうが有利になるので、人脈は広げておいたほうがよいでしょう。勉強においてだけでなく、私生活の面でも相談できる相手がいるということは今後大きな支えとなるはずなので、そういった面でも人間関係は大切にしたいほうが良いと思います。

二つ目はいろいろなことに挑戦してみることです。一年生の間は自由に使える時間が多いと思います。その時間で例えばバイトなど新しいことに挑戦してみてください。学年が上がるにつれておそらく自由な時間が減ってってしまうと思うので、経験してみたいことがあれば一年生の間に始めるのを勧めます。

新しい環境での生活が始まり、戸惑うことも多いと思いますが、共に頑張っていきましょう。皆さんが楽しい大学生活を送れることを願っています。



医学科 2年

廣田 慧子

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学して2ヶ月が経とうとしていますが、大学生活には慣れてきたでしょうか。新入生の皆さんの中には入学に至るまでコロナ渦で大変な思いをされた方も多いと思います。ようやく始まった大学生活、自分なりのスタイルを見つけ出し、思う存分学び、遊び、楽しんでください。

私が新入生の皆さんにお伝えしたいことは「とにかく何でもチャレンジしてみたい」ということ。そして、何かを始めることはそんなに難しく考えなくて良いのだということです。とにかく何でもやってみましょう。大学では自分が何に時間を割くのか自分自身で選択し決めていくことが出来ます。自分の行動次第で様々な経験を積み視野を広げることも出来ますし、普段出会うことの出来ない人との繋がりを持つことも出来ます。もちろん勉学に励むというのは前提として、様々なことに自ら挑戦してみてください。

大学での4年間、または6年間はあっという間に過ぎ去ります。大学時代に培った経験は後の人生で大きな財産になることでしょう。沢山のことを学び、人との出会いや繋がりを大切に、様々な経験を積みながら充実した日々を過ごして下さいね。



保健学科
看護学専攻

土田 心音

弘前大学に入学して

私は大学入学を機に一人暮らしを始めました。食事や家事、学業を両立する為に、一日の予定を立ててから行動することの大切さを改めて感じました。初めは慣れない街並みや学校生活への不安、家族と離れて暮らす寂しさで思うような生活を送ることができませんでした。しかし、生協のサポート体制が充実している事や先生方、先輩方、友人の支えもあり、安心して日々学業に取り組んでいます。

自立とは、自分の生活や生き方に責任を持って自分の力で行動する事だと思います。そのためには社会の一員として、弘前大学の学生の一人として、自分自身を律していく事が重要だと考えます。健康面や金銭面で責任ある行動を心掛け、節度ある生活を送ることを大切にしていきたいです。

弘前大学医学部保健学科は五専攻を有する日本でも数少ない特色を持ちます。私はここで実践的な医療を深く学び、将来はチーム医療の中核的役割を果たせるような存在になりたいです。また、自分自身の教養を深めることや資格取得、サークル活動にも力を入れていきたいです。弘前大学には様々な学生が在籍しているので沢山の方々と関わり合いながら、楽しく充実した大学生活を送り、自己実現を目指していきたいです。



保健学科
作業療法学専攻

佐藤 遼汰

弘大生になって

弘前大学に入学して早くも1ヶ月が経ちました。新しい環境での生活に不安でいっぱいでしたが、同じ専攻やサークルで新たな友達ができ、だんだんと大学生生活にも慣れてきました。思ったよりも弘前近辺の人が少なく、話をするとき津軽の発音がおかしいのか聞き返されることが多く少し困っています。これは共感してくれる人も多いのではないのでしょうか。早く標準語で話せるようになりたいと毎日思いながら過ごしています。

大学に入ってまもなく高校生のときよりも多い課題に追われていて、これが4年間続くと思うと心配ですが、大学は人生の夏休みだという言葉信じて気を抜かず大学生活を楽しんでいこうと思います。そして大学での目標は何事にもチャレンジしてみることなので、今までならやっていなかったようなことや苦手なことにも積極的に取り組んでいきたいです。

これからは、今までただ先生に指示されたことをやっていた高校の時と違って、何もかも自分で考え、全ての責任が自分にあることを自覚して行動しなければなりません。これからは弘大生として恥ずかしいことのないように生活していきたいと思います。そして4年後には立派な大人になっていられるように頑張ります。

弘大生の一員として

医学部にある心理を学べる場所。それが私の弘前大学に入ろうと決めた理由でした。実際にこの一か月間過ごしてみて、やりたいことはこれで間違いなかったと確信を得られるような充実した日々を送ることができています。一人での生活はまだまだ慣れないこともありますが、たくさんの人に支えられていたこと、また支えられていることを改めて感じています。

大学生になって感じたこれまでとの違いは好きなことができるということです。例えば、私は公認心理士の資格を取ることを大学生活の一番の目標にしていますが、それ以外の自分の興味があることも学べる、できる環境があることもその一つでしょう。教育学、考古学といった高校時に気になっていた学問が学べて、留学への門戸が広がり、今までよりも大規模なサークル活動や、今までは難しかったバイトが可能になるなど選択肢が大きく増えました。そういった環境が用意されている、この弘前大学という場所の利点をどれだけ活かせるか、またそれらを活用するための人脈をつくれるかということ大切にしながら、4年間全力で頑張っていこうと思います。

心理支援科学科

八別當 愛奈



保健学科
放射線技術科学専攻4年

荒井 僚太

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナ禍が未だ続く中、様々なことが制限され新しい環境でめまぐるしい日々を送っているという方も多いと思います。私が大学一年生であった頃と比べると状況があまりに異なっており、新入生の皆さんと通ずる部分はあまり多くはないかもしれませんがメッセージを送らせていただきます。

まず第一にお伝えしたいことは、人とのつながりを大切にしたいということです。辛いとき、忙しい時に支え合うことのできる友人は本当に大切だと思います。僕自身も友人達と支え合って勉学に励んできたからこそ、ここまでやってこられたのだと思います。コロナ禍が続く中、同級生や先輩と交流する機会は少ないとは思いますができるだけ交流して欲しいと思います。サークルや部活動をやってみるのもとても有意義だと思います。

次にお伝えしたいことは、学びの機会を大切にしたいということです。弘前大学にはとても優秀な先生方が多くいらっしゃいます。是非自分が興味を持てる分野を見つけ、指導していただける先生を見つけ、様々なことを学び、吸収して欲しいと思います。

最後になりますが、皆さんの学生生活が有意義なものになるよう祈っております。



保健学科
検査技術科学専攻3年

鈴木 理彩

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まって数ヶ月たちますが、そろそろ新生活にも慣れてきた頃でしょうか。4年間大学生活を送るにあたって、大切にしたいことがあります。

大学では高校と違い、自分の興味のあることや自分の専攻について深く学ぶことができます。また高校の時より自由な時間も多いため、サークル、部活動、アルバイト、趣味、資格取得などに勤しむこともできます。しかし自由な時間が多い反面、目標を持って過ごさなければ何も得られないままあっという間に1年が過ぎてしまいます。そのため、どんなに小さなことでも何か目標をもち、与えられた時間をどうしたら有意義に使えるか考えて生活するといったと思います。

また皆さんには人との関わりも大切にしたいです。大学では、様々な考え方や価値観を持った人に出会うことになります。その中で自分の視野を広げ、柔軟な価値観を養ってほしいと思います。

私にとっての2年間はあっという間でした。新入生の皆さんも何事にも目標をもって充実した大学生活を送り、自分のやりたいことを目一杯楽しんで欲しいです。皆さんがこれから素敵な大学生活を送れることを願っています。



保健学科
理学療法科学専攻3年

加藤 快都

新入生に向けて

新入生のみなさん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。新生活にも慣れてきた頃かと思いますが、時間がある中で何をすればいいかわからないという人も多いと思います。そこで私から皆さんに大学生活でぜひ大事にしてほしいことをお話ししたいと思います。

私が思う大事にしてほしいことは、興味を持ったことに挑戦することです。挑戦することは、サークル活動、部活動、バイトなどどのようなものでも構いません。たくさんの方に挑戦することで、自分というものが見えてくると思います。自分では気づかなかった長所や性格、考え方、価値観など見つかると思います。それらをもとに考えれば、これから自分は何をやりたいのかが見えてくると思います。私は飲食店でバイトをしていましたが、接客などたくさんの人とコミュニケーションをとることが得意で、好きであると気づくことができました。また部活動を通して、これからの人生で思いやりを持って人と接していきたいと考えるようになりました。これらの経験を通して、今では海外で理学療法士として働いてみたいという夢が見つかりました。

大学生活はあっという間です。悔いのないように大学生活を送ってください。



物質創成化学科

大場 康平

弘前大学から始める誇れる人生

私は今、尊敬すべき友人のもとへと向かう飛行機の中でこの文章を書いています。彼は自分の目標に向かって努力し、成し遂げた素晴らしい人間です。そんな彼とは対照的に、自堕落な私は努力を怠り失敗を繰り返してきました。そして私は大学受験にも失敗したのです。

正直に言うと、2か月前まで私はこの弘前に来ることを考えてもみませんでした。

受験に赴いた3月のあの日も、故郷に別れを告げた4月のあの日も、慣れない一人暮らしのふとした瞬間にも頭によぎるのです。「もし第一志望に受かっていれば」

今の自分がとてもみじめな敗北者に思えるのです。弘前大生となったことに誇りが持てず、未練を捨てきれないのです。しかし、1か月過ぎず中で少しずつ思い始めました。

「ここにいるのは皆努力した人たちのんだ。」

今私は弘前大生です。周りを見てください。誇りをもってここにきた皆がいます。

私はほかでもない弘前の地から、弘前大学から誇れる人生をスタートさせます。

そして4年後胸を張って歩き出します。卒業証書と弘前大生の誇りをもって。



地球環境防災学科

伊藤 慶人

大学生活への意気込み

弘前大学に入学して一ヶ月が過ぎ、不安だった大学生活もやっと板についてきました。ゴミ収集日や野菜の値段、水道料金システム。これらのような今まで意識してこなかったことに目を向けるようになってから、親のありがたみをひしひしと感じています。

大学生になってから、新しい出会いがたくさんありました。全国各地の人と関わるようになって、各地の異なる風土や文化、方言に驚くことが多々あります。津軽弁はその最たるものです。前からその存在をテレビで知っていましたが、実際に見聞きしたものとテレビで見たものとは、また違った魅力がありました。

「大学生活はバイキングのようなものだ。」という言葉を聞きました。「いろいろなことに挑戦する機会は平等に与えられるが、何に挑戦するかは自分で決めなければならない。そしてそれは自己責任である」今まで見えていなかったことが見えたときや、知らなかったことを知れたときは嬉しいので、新しいことへの挑戦や人との出会いを大切にしていきたいと思います。また、悔いのない大学生活にし、自分自身の知見を広げるため、いろいろなことに積極的に挑戦していこうと思います。



電子情報工学科

柳本 陽亮

入学から1ヶ月が経って

弘前大学に入学して1か月が経ちました。時間割、食事、休日の過ごし方など自分で決めることがとにかく多く、失敗の連続で大変でしたが、少しずつ生活にも慣れてきて、授業、友達との交流、部活動など、今ではとても充実した日々を送っています。

昨年の10月、初めて弘前市を訪れました。道を尋ねた見ず知らずの私に「受験頑張っね」と、優しく声をかけてくれた人がいました。この方だけでなく様々な場面で、町の人たちが私にやさしく接してくれました。弘前の温かい雰囲気、歴史や文化に心を動かされた私は、受験に来たというのに、時間の許す限り市内を散策していました。

大学の授業はすべて自己責任で自主的に課題に取り組んでいくので、自分の興味ある分野をとことん学びたい私には、とてもうれしく、魅力的な環境です。特にパソコンと情報工学について専門的に学べるので、意欲的に授業に臨むことができます。

弘前大学の学生として、これから急速に発展していく情報社会について深く学ぶのはもちろん、友人、部活動や地域の人との交流を通して自分自身を高めていけるよう頑張っていきます。



数物科学科4年

松田 萌里

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。対面での授業が始まり、大学生活には慣れてきたでしょうか。今思えば大学の四年目はこんなにも早くきてしまうのかと感じます。ですから皆さんには「後悔のない大学生活を送れた！」とそれくらい充実した学生生活であってほしいです。

大学生になってから、新しくバイトを始め、たくさんの人との出会いから学校では学ぶことのできない「学び」がありました。また大学生活の活動としては、高校時代には特別進学コースのため所属できなかった部活動として器械体操をやったり、かつて陸上部として活動していたこともありました。その他にも気になったイベントやボランティア活動には積極的に参加するようにしました。そういったところで人との出会いであったり、喜び、悩みや葛藤など色んな経験をしてください。

高校とは違うところは学業面でもあります。それは自主的な学びが大事なところですが、でも自分の得意な好きな分野の学びになるでしょうから、きっと面白いですよ！ちょっと先輩ヅラしてしまいましたが、学びでさえも楽しんで欲しいです。

皆さんの大学生活が有意義なものになりますように。



機械科学科3年

谷崎 樂

後悔の残らない学校生活を！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが大学に入学してから二ヶ月ほどが経過しましたが、いかがお過ごしでしょうか。昨今のコロナウイルスの影響によりこれからの学校生活へ不安が残る方も多いかと思えます。

私から新入生の皆さんへお伝えしたいことは、「何事も受け身にならず、積極的に挑戦してみる」ことです。大学の4年間は思っているよりもあっという間に過ぎてしまいます。受け身の状態でいるとせっかくの貴重な大学生の時間を無駄にすることになってしまいます。私自身3年生になってみて、これまでの2年間もっといろんなことに挑戦していれば良かったと今更ながら後悔しています。新入生の皆さんは私とは同じ轍を踏まないよう、学校の勉強以外にサークル活動、アルバイト、資格勉強、ボランティア活動、などの課外活動に積極的に挑戦してみてください。

最後になりますが、私たち大学の先輩や大学の教員、職員の方々は全員新入生の皆さんの味方です。何か悩み事や、授業などでわからないことがあったらいつでも気軽に相談してください。皆さんの大学生活がより良いものになることを願っています。

自然エネルギー
学科4年

福坂 岳

大学生活のすゝめ

新入生の皆さんへ、ご入学おめでとうございます。入学されて数ヶ月が経ち、今までと180度変わった環境に慣れてきたことでしょうか。今年は無事新学期を対面授業で実施でき、新入生の皆さんの姿を見ることで自分が4年生になったという実感が湧いてきたところです。

さて、ここでは私は日々の大学生活の過ごし方について話をしたいと思います。大学生活はこれまでの学生生活とは違い、自分で自由に使える時間が大幅に増えます。これは裏を返せば、充実した大学生活を送るも、怠惰な生活を送るもみなさん次第であるということです。

また、勉強だけでなく、たくさん遊び、様々な場所に足を運び知見を広めてください。私は1週間かけて東京から広島県まで在来線のみで無計画で旅をしたことがいい思い出です。自分の生まれ育った地域とは違う場所を訪れることで、自分の価値観が変わった気がしました。

みなさんのこれからの4年間の大学生活も様々な成功と失敗を繰り返して有意義なものになることを願っています。



分子生命科学科
マレロ 剣士朗

意外と…

分子生命科学科の剣士朗です。辛い受験を乗り越えて入学した弘前大学。誇りに思っています。

ところで、皆様は大学生活にどのようなイメージがありますでしょうか？あるいはありましたでしょうか？

僕は大学に受かってから期待に胸を膨らませました。大学生というのは時間に余裕があって、自由なものだ。勉強以外の楽しいこともたくさん経験できるんだ。と。

意外と違うかもしれませんね。

勉強は今まで通り、もしかしたらそれ以上に大変かもしれません。予習復習が忙しいですし、「後期は尚更大変。」「この授業は難しいよ。」と警告されますし、まだ慣れていないということもありますが、正直不安です。

ただ、同時に安心感もあります。墮落はきっとしないのだろうなと思うのです。周りには勤勉な方が多く、気になったことは積極的に質問しているのを見ますし、図書館では多くの人が勉強しています。つまり勉強の環境が整っていて、そういう空気が流れているということです。正直それもまた辛いんですけどね。

ただ、環境は人を作ると言いますし、もし楽しいだけのところであれば僕はあっという間にダメになっていたでしょう。

せっかく良い環境の弘前大学の学生になれたのです。今のうちから勉強を頑張っていきたいです。そして落ち着いてから楽しい部分を満喫できればと思います。



食料資源学科
浦田 日向子

大学生活の抱負

弘前大学に入学してから、早くも一か月が経ちました。親元を離れて始まった一人暮らしにも少しずつ慣れ、楽しく充実した生活を送っています。新生活を始めるにあたって、一人暮らしは楽しみにしていたことの一つですが、想像していたよりも大変なことが多く、家族のありがたみを実感しました。

私が大学生になり一番感じたことは、自由にできることが増えたという事です。高校生までは授業は強制的に決められていましたが、大学生活では自分の興味があることを学ぶことができるので、自主的に学ぶ大切さに気付きました。今までの私は何に対しても受動的なことが多かったので、能動的に行動することを心がけたいです。このことは、大学生活だけではなくバイトなどでも同じことだと思います。人から言われたことだけをやるのではなく、自ら考えて積極的に動くことを大切にしていきたいです。

大学生活は大きく成長する場であるとともに、新しい自分に出会う場所でもあります。私はまだ将来就きたい職業がはっきりとは決まっていますが、大学生活という貴重な四年間を無駄にすることなく、成長していきたいです。悔いの残らない充実した四年間になるよう頑張ります。



国際園芸農学科
菊地 蒼

新学期を迎えて

大学に入学してから一か月がたちました。新しい環境と初めての一人暮らしに慣れるために、試行錯誤しつつ楽しく過ごすことができています。大学の講義にも慣れ、新しい友人もできましたが、課題の提出を忘れそうになる毎日です。

私は将来、農福連携に携わることを目指して国際園芸農学科を志望しました。農福連携とは人手不足が問題である農業を、障害を持つ方々の力を借り解決していこうという取り組みです。この取り組みの魅力は農業の復興とともに、障害を持つ方々の社会参画の場にもなりwin-winな関係を築いていけることです。ですが農福連携は取り組み事例が少ないことなどの理由からあまり広まっていないのが現状です。私は弘前大学で農業の仕組みを学ぶことで、農家としてではなく新たな視点から農福連携を進め、青森の農業を復興していけるのではないかと思います。機械化などが進んでいる農業ですが、やはり人の力で農業を行い、生産者の顔が見える農業の方が、消費者にとっては安心できると思います。

農業について専門的な学びが始まるのは来年からになりますが一日一日を大切に、学習面、人間関係ともに有意義に大学生活を送りたいです。



生物学科2年

荒川 莉穂

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学の学生になって早くも数ヶ月となりましたが、新生活には慣れましたか？ 沢山の「初めて」に追われ、あっという間に時間が過ぎていったと感じている方も多いのではないのでしょうか。私は勉強、部活、と必死に生活をしていたらもう二年生になっていました。正直な話まだ一年も経っていない様な気持ちなので不思議な感覚です。さて、そんな私から皆さんに大学生活で大切にしたいと思っていることをお伝えさせてください。

将来への目標を明確に持って、それを見失わないでください。今までと違い、大学というものは非常に自由度が高いです。講義をぼんやり聞き流しても休んでも中高ほど言われられないでしょう。それはつまり、自分で管理しなければいけないということです。夜更かししてしまったり起きるのが苦しい時、寒くてお布団から出られない時、大学に行くのが億劫になることもあると思います。そんな時に、自分の中にある何か明確な将来の夢が「あと少し」を頑張る手助けをしてくれます。大学での四年間は思ったより短いとはよく言われることです。目標を見失いかけて苦しんだ私として、学年が上がった時、卒業の時に後悔しないようにこの一点は大切にしたいです。皆さんの大学生活が充実し、将来の夢を叶える足掛かりとなることを願っています。



国際園芸農学科3年

伊東 菜々子

新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活が始まってもうすぐ2ヶ月が経とうとしていますが、新生活いかがおすごでしょうか。

私は、1年生の後期から複数のバイトを経験したり、援農サークルに参加したり、旅行に行ったりしている中で最近やっとやりたいことがわかってきた気がします。ですが、3年生になり自分の将来について考えなくてはならない時期に突入し、もっと早くから時間を有意義に使えていたらなと後悔しています。1、2年生の時期が自分のやりたいことにより多くの時間がさけると思っているので、是非やってみたいこと、行ってみたい場所がある人は思いとどまることなく、挑戦することをおすすめします。今まではほとんどが保護者ありきでの生活だったこともあり、初めてのことに不安の方が勝ってしまったり慎重になってしまうことが多いですが、案外やってみるとそうでもなく新しいことに気づくことができたりします。

多少の失敗も人生の経験として自分にしかできない充実した時間を過ごして欲しいと願っております。



地域環境工学科3年

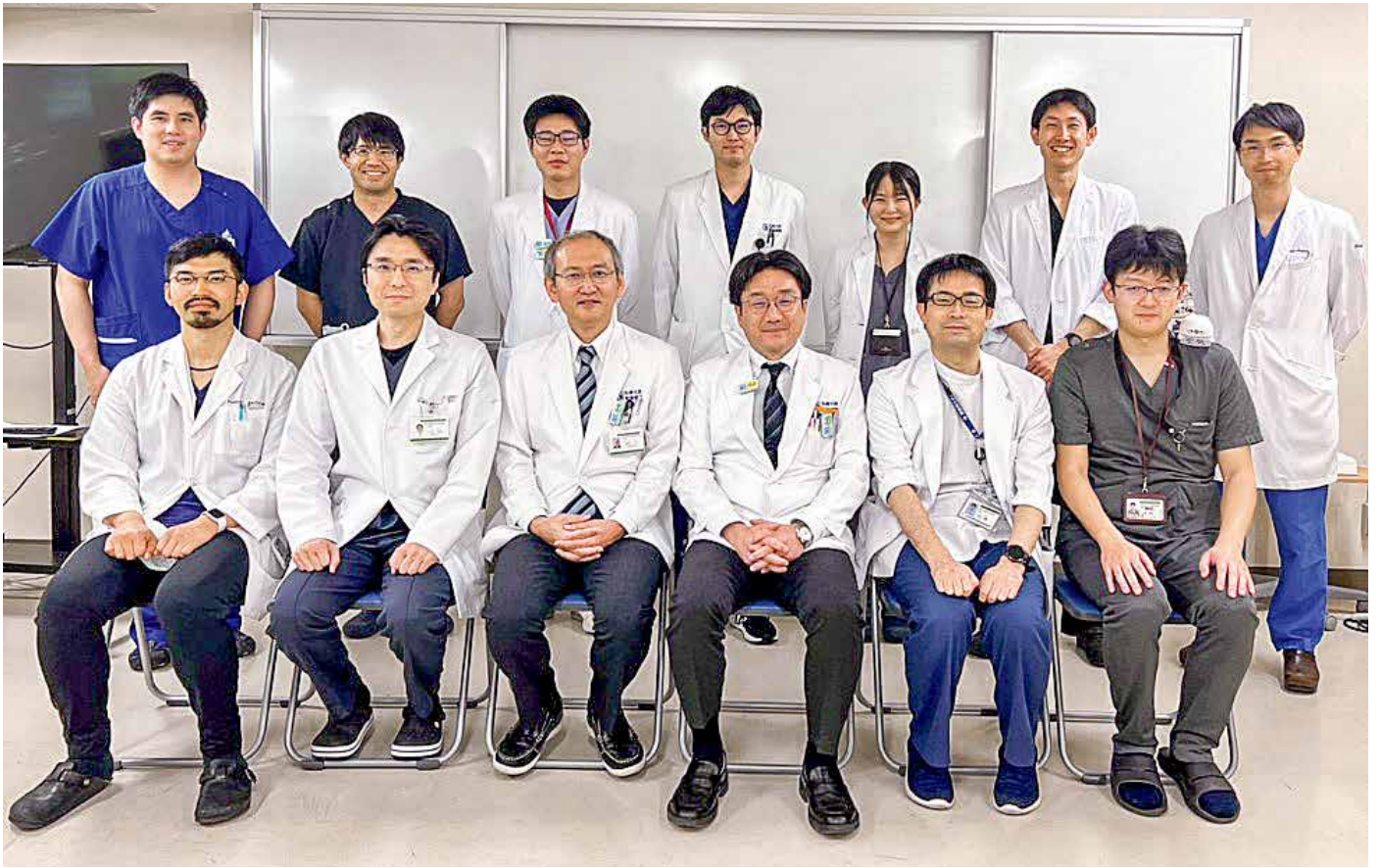
北川 創太

後悔しないように

ご入学おめでとうございます。新しい学生生活に期待や不安を感じていると思います。僕も入学時には不安がありましたが、今思うと、新しい環境で、新しい仲間と出会い、新しいことに挑戦することは、自分自身を成長させてくれます。

大学生活は、今までよりも自由な時間が増えます。この時間をどう使うかは皆さん次第ですが、その分自分への責任は大きくなります。1日1日を充実させるためには、どうすればいいのかを考えて過ごしてほしいと思います。僕から皆さんにアドバイスするならば、何か1つでも目標を持って学生生活を送ってほしいということです。部活・サークルやアルバイトに力を入れるのもいいと思います。1つでも目標を持って努力することは、必ず自分のためになるし、たくさんのチャンスをつかむことができるはずです。新しい挑戦をすることは、勇気が必要ですが、その勇気を持つことで自分の新たな部分を見つけられます。

4年間は長そうでも短いものです。この短い期間の中で、どれだけ充実した生活を送ることができるかが重要だと思います。ぜひ、積極的にいろんなことに挑戦してみてください。たまには息抜きしながら全力で楽しんでください。



こんなことやっています！

CLOSE-UP

研究室紹介

医学研究科 胸部心臓血管外科学講座

教授 皆川 正仁

はじめに

令和3年2月1日付で、医学研究科胸部心臓血管外科学講座教授を拝命いたしました。当講座は、平成19年より旧第一外科から現在の講座名に変わり、私が第6代目の教授になります。現在は、呼吸器外科と心臓血管外科学領域の診療・教育・研究に携わっており、大学には例年十数名の医局員が在籍し、初期研修医、外科専攻医、大学院生、修練医および指導医が、日々診療や研究に研鑽を積んでいます。今回、当講座における研究活動について皆様にご紹介させていただきます。

臨床研究

当講座における診療グループは、呼吸器外科と心臓血管外科グループに分かれております。近年は外科学全般に言えることですが、手術の低侵襲化の発展が目覚ましく、内視鏡やロボット支援下手術、小切開下手術が盛んに行われています。また、医療材料におきましても、自動吻合器や縫合器、人工血管や人工弁の多様化、体外循環装置の進歩、カテーテル機器や手術補助機器、止血用製剤の多様化が見られます。このような低侵襲手術の発展により治療成績は格段に向上しており、1990年代と比較しますと、手術時間や合併症発生率、生命予後は格段に改善しています。しかし、一方では国民の高齢化や生活習慣病の増加といった

時代背景から、手術の難易度が増していることも事実であり、我々にはより高度な治療技術の発展が求められております。現在、当講座では日常臨床で生じた多種多様なクリニカルクエストに対しての後ろ向き・前向き研究を行い、学会発表や論文投稿、他施設共同研究などを通じて日本や世界に発信しています。

心臓血管外科は先天性心疾患、血管外科、心臓弁膜症、虚血性心疾患の分野に大別されます。若手外科医はすべての領





写真3

域の専門知識や標準的な手術スキルを習得する必要がありますので、当講座では定期的に手術手技のトレーニングを行っています。写真2は大動脈弁狭窄症に対する血管内治療であります経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)ならびに大動脈瘤に対するステントグラフト留置術のトレーニングの様子です。疑似血管や練習用カテーテル、バーチャルリアリティー画面を見ながらのトレーニングにより、効果的に手術手技の上達が得られます。また、ブタの摘出肺や摘出心を用いたウェットラボも定期的に行っており、肺の血管処理、自動縫合器の扱い方の練習、冠動脈バイパス術を模した細い血管どうしの吻合、各種人工弁や人工弁輪の縫着といったトレーニングも行っています(写真3)。これらのトレーニングは、手術手技のラーニングカーブを早めるためには非常に重要であり、近年の手術成績の向上に大きく寄与しています。現在、当講座ではバーチャルリアリティー機器や視線追跡機器を使用した手術手技トレーニング法の開発の研究に取り組んでいます。この研究は始まったばかりですが、外科専攻医の手術手技トレーニングへの応用に貢献できることを目指しています。

呼吸器外科手術ではこの十数年来、胸腔鏡システム支援下に皮膚切開長が8cm以下の小開胸創で行う肺葉切除術を第一選択で行っていますが、昨年からは単孔式肺切除術、本年からはロボット支援下肺葉切除術を開始しました。単行式肺切除術は4cm以下の一つの創だけで手術を完結する低侵襲手術です。ロボット支援下手術では、術者は患者傍の操作用コンソールに座り、3次元の術野映像を見ながら、患者側と連動するロボットアームを指先や足元のペダルを操作する

ことで手術を行います。ロボット支援システムは未だシステムに改良の余地がありますが、従来の胸腔鏡下手術に比べて体腔内の狭い空間における操作性に優れることから、従来よりも短い切開創から手術を行うことができます。今後の呼吸器外科手術の多くに適応拡大されていくと思っておりますし、外科医が減少している昨今、異なる施設間で遠隔手術を行うことができるという可能性を秘めています。

基礎研究

当講座では、弘前大学理工学部との医工連携や基礎医学系講座との共同研究を行っています。

医工連携では、体外循環中の大動脈内血流解析の研究、人工心肺用の送血管や脱血管の血流解析の研究、手術用ドレーン(体液排液用の管)の流体解析と開発、採血・注射用ロボットの開発、血管吻合様式の違いにおける血管内血流解析などに取り組んでいます。この場をお借りし、理工学部の先生方に深く感謝を申し上げます。血流解析に関する研究には私も2005年より携わり、Particle Image Velocimetry法を用いて、体外循環中の大動脈内の血流の可視化を疑似回路を用いて行いました。本研究で得られた新知見をもとに、大動脈壁への血流のストレスが小さい新しい構造の送血管の開発を行いました。福田幾夫前教授の開発したこの送血管は、現在、日本国内で広く臨床使用されています。また、胸部大動脈手術における脳合併症の予防や遠隔期成績についての研究にこれらの基礎研究が礎になっており、弘前大学における胸部大動脈瘤に対する手術成績は非常に優れています。

基礎医学系講座との共同研究では、大動脈弁の病的石灰化の機序の解明についての研究を行っています。大動脈弁狭窄症という疾患は、心臓の出口にあたる部位の弁が病的石灰化によって硬化や癒合することで狭窄を来す疾患です。本疾患は人口の高齢化に伴って増加傾向にあり、標準手術である人工弁置換術も増加しています。以前は80歳以上の超高齢者で、心停止下の手術がハイリスクの患

者さんには手術を積極的には行いませんでしたが、近年の経カテーテル大動脈弁留置術の出現により、80歳以降の患者さんに対する治療適応拡大がなされています。本疾患の病因や分子生物学的機構については長年不明でありましたが、脳血管病態学講座との共同研究によりワルファリンが大動脈弁間質細胞の石灰化を促進すること、TNF α (腫瘍壊死因子 α)、BMP2(骨形成タンパク質2)、VEGFR2(血管内皮細胞増殖因子レセプター2)などの因子を介した石灰化機構の発見、漢方薬の黄連解毒湯やMatrix Gla protein(マトリックスGlaタンパク質)に石灰化の抑制効果があることなどを報告しました。今後は、石灰化が進行する前段階の軽症大動脈弁狭窄症を発見するための有効な検査方法の開発、石灰化の進行を抑制する薬剤の開発などを計画しています。

呼吸器外科領域の研究では、神経解剖・細胞組織学講座との共同研究で人工胸膜に関する研究を行っています。肺の手術では肺表面や切離断端からの気瘻が時に問題となり、入院期間の延長や胸腔内感染(膿胸)といった重篤な合併症を併発することがありますが、脆弱な肺は縫合による閉鎖が難しい臓器です。そこで、この研究では綿状の吸収性医療材料に積層培養した線維芽細胞とラットの中皮細胞からなる培養シートを作ります。このシートを、ラットの肺表面を損傷させて気瘻を作成したモデルの肺表面に貼付して、培養中皮細胞シートの生着能や気瘻の閉鎖能力を評価しています。将来的には、慢性肺気腫による気胸や自然気胸の症例、術後の難治性気瘻の症例に対して臨床応用できることを期待しています。

おわりに

当講座では、青森県において高度な医療を提供すべく臨床研究や基礎研究、診療に講座員一同専心し、短命県返上に寄与できるよう引き続き頑張ってお参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



新任教員紹介

個性豊かな15名の教員が新たに着任いたしました

人文社会科学部



ビジネス
マネジメント講座

商 哲

令和4年4月1日付けで人文社会科学部に着任致しました商哲と申します。専門は管理会計・原価計算になりますが、特にバランスド・スコアカード（BSC）に焦点を当て、企業の戦略実行において、各種の管理会計技法との関係性を考慮した、BSCの活用方法について研究しております。微力ではございますが、本学の教育・研究の発展並びに地域経済の発展に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

教育学部



美術教育講座

佐藤 絵里子

「授業を通して、目の前の子どもにより変化をもたらすとは？」という中学校教諭時代の問いを原点とし、評価に関する研究を続けて参りました。着任以来、弘前で出会った多校種の先生方の、子どもの姿を通して「よさ」や「美しさ」を把握する眼差しに啓発されました。美術科は、自由と抑圧の二元論を超えて、未知のもの、言葉にしがたい思いを共有の力に変換する教科です。挑戦を続けて参りますので、何卒よろしくお願いたします。

教育学部

家政教育講座

谷本 憂太郎

教育学部家政教育講座で食物学（シヨクモツガク）を担当しております。食物学は食品の科学だけではなく、食文化、調理学、食育など食生活を総合的に研究します。青森県は食資源が豊富であり、特徴的な郷土料理もたくさんあることから、おもしろい研究ができるのではないかと考えています。また、学生のみなさんと「弘前大学だからこそできる食物学の研究」を目指して頑張っていければと思います。

教育学部



学校教育講座

中村 恵佑

今年度から教育学部助教に着任した中村恵佑と申します。教育行政学研究室に在籍しており、大学入試を中心とした教育政策の政策過程について主に研究しています。出身は長野県松本市なのですが、自然に囲まれていることや城下町であること、りんごが特産物であることなど共通点が多く、素敵な街だと感じています。新任教員として頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

教育学研究科



教職実践専攻

三戸 延聖

4月1日に教職大学院に着任しました三戸延聖です。学長先生から辞令を交付され会場で荷物を整理していると、人文社会学部の飯島裕胤学部長から「先生は本学人文学部のご出身と聞きました、学生にとりましても励みになります。」という趣旨の言葉を掛けていただきました。とても嬉しかったです。これからも心の支えになります。教職を目指す学生の皆さん、すでに教職にある皆さん、ともに学びを深め合うことを楽しみにしています。

教育学研究科



教職実践専攻

若松 大輔

2022年4月に着任しました若松大輔と申します。私の専門は教育方法学で、とりわけ授業づくりに関わる教師の力量形成について研究してきました。「教育」の境界線が揺らいでいる現代に、青森県の具体的な教育課題の中に現代の教育課題の典型を見出しつつ、積極的に足元にある身近な学校現場に関わっていきたいです。これから、教職大学院の院生と同僚の先生方とともに、研究・教育活動を展開できることを楽しみにしております。

医学研究科



産科婦人科学講座

重藤 龍比古

令和4年4月1日付で産科婦人科学講座に赴任いたしました重藤龍比古（しげとう たつひこ）と申します。3月までは青森県立中央病院に勤務しておりました。5年ぶりの大学復帰となります。婦人科腫瘍が専門となります。そろそろコロナ感染症が落ち着き各種スポーツ大会が開催できるようになると良いなと思っています。アップルマラソンに向けてリハビリ中です。よろしくお願ひ致します。

保健学研究科



総合リハビリテーション科学領域

井上 直美

4月より医学部心理支援科学科・大学院保健学研究科に着任いたしました。これまで東京の帝京平成大学にて臨床心理士と公認心理師の養成に努めて参りました。専門は心理アセスメントで、早期精神病の転帰や、トラウマ治療の効果を、さまざまな検査法を用いて測定しております。将来、青森県・東北地方で主導的な役割を担える公認心理師がこの大学から巣立っていくよう教育と研究に努めて参ります。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

理工学研究科



数物科学コース

三浦 達彦

令和4年4月1日付けで理工学研究科に着任いたしました三浦達彦と申します。専門は解析学で、特に薄い膜の内部を流れる流体の運動や物体表面の熱拡散を記述するような偏微分方程式の数学解析について研究しております。りんごが好きなので旬の時期には弘前のりんごをぜひ食べたいと思います。至らない点も多々あるかと思いますが、弘前大学での教育や研究に尽力して参ります。よろしくお願ひいたします。

理工学研究科



物質創成化学コース

関口 龍太

令和4年3月付で理工学研究科に着任しました関口龍太と申します。この度、学部・大学院の計9年間を過ごした母校・弘前大学において教員として教育・研究に携われること、大変うれしく思います。私の専門は有機化学であり、特異な分子構造を持つ有機分子を合成し、その物性や機能の解明を目指して研究を行っています。弘前大学のさらなる発展に寄与できるように全力で取り組んでまいります。何卒よろしくお願ひいたします。

理工学研究科



機械科学コース

三浦 鴻太郎

令和4年4月に理工学研究科に着任いたしました三浦鴻太郎と申します。専門分野は弾性論・固体力学と呼ばれる、物体の変形挙動や応力解析を数学的に、また数値シミュレーションを駆使しながら調べる学問です。弘前は馴染みがない土地でしたが、岩木山がとても綺麗で、いつも元気をもらっています。教育・研究・地域貢献に、何が本当に求められているのかを考えていながら努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

理工学研究科



リチウム資源
循環工学講座

丹羽 栄貴

理工学研究科のリチウム資源循環工学講座に着任しました丹羽栄貴と申します。メインの職務は、講座名の通り、リチウム資源を効率よく回収する技術の高度化及び高速化を目指し、研究していきます。EUでは2035年にガソリン車・ハイブリット車の販売が禁止されることになり、バッテリーの原材料であるリチウムの需要は急増すると予想されています。高効率にリチウムを回収する技術の確立は、世界的に急務となっています。

農学生命科学部



生物学科

藤井 祥

令和4年2月に着任しました、藤井祥と申します。春になると多くの植物が芽生えます。このとき、細胞の中では次々と葉緑体が発達します。植物は様々な反応を協調的に進めることで精巧な光合成装置を作りあげますが、その設計図の全貌はまだ謎だらけです。この葉緑体の設計図を描き出すべく研究を進めています。弘前大学の皆さんと自然や生き物の不思議を探求していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

地域創生本部



地域創生推進室

佐々木あつ子

4月から地域創生推進室に勤務しています。3月末に青森県職員を定年退職しましたが、直前に所属していた環境生活部は、地球温暖化やごみ対策、自然や生活環境の保全、男女共同参画、青少年の健全育成、消費生活の安心、NPO等の活動支援、文化振興等を担当しています。また、観光振興や企画調整、健康福祉等幅広い分野に携わりました。地域と大学の架け橋になれるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

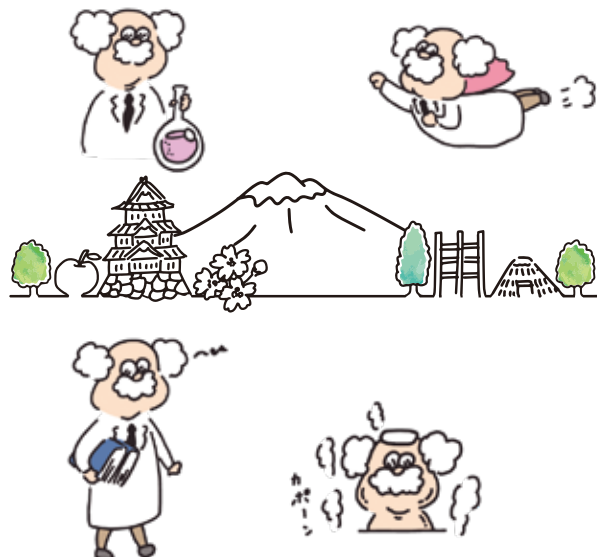
地域創生本部



地域創生推進室

辻本 侑生

1月に地域創生本部に着任しました辻本侑生と申します。前職は神奈川県民間シンクタンクで、公共向けの調査研究・コンサルティングに従事しておりました。本学では、自治体・企業等との連携推進や、「食」分野における地域創生の推進に取り組めます。皆様にご相談させていただくことも多いと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。専門は民俗学なので、県内の魅力的な歴史・文化を訪ね歩くのを本当に楽しみにしています。





令和4年度 弘前大学学生ボランティア活動 助成団体採択書交付式を実施

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を令和4年6月8日(水)に事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、福田学長から今年度申請のあった3団体の各出席者に活動助成費採択書が手渡されました。続いて、各団体出席者から日頃の活動内容について紹介がありました。

福田学長からは、「採択おめでとうございます。コロナ禍にあっても、変わりなく頑張って活動されていることに、まずは敬意を表します。大学は、皆さんのような地域における活動を支援したいと考えているので、他の団体へも、この制

度について広めていっていただきたいと思います。どうぞ、今年度も頑張って活動してください。」と学生の活動を力付ける言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体出席者から、活動の実施状況や新入生勧誘状況の説明があり、昨年度までは新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、活動が縮小していたところ、最近は徐々に活動が活発化し、多くの新入生が加入している様子を聞くことができました。

令和4年度 ボランティア活動助成団体

団体名	申請代表者名	所属学部
SaBoTen (サボテン)	前田大輝	理工学部
児童文化研究部KIDS'	山形純平	理工学部
僻地教育研究会	佐藤大哉	農学生命科学部



本号では特集「新入生を迎えて」にて、新入生の皆さんからのメッセージ、また在校生の皆さんからのメッセージをいただいています。対面で交流する機会も増え、授業や課外活動にさまざまな意気込みをもって取り組んでいることと思います。

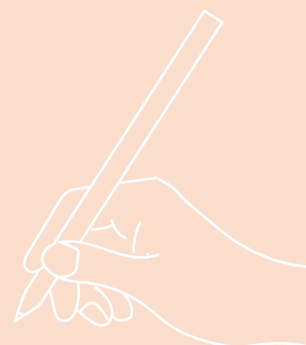
さて私自身は弘前に着任して11年目の春を迎えました。すっかりこちらの生活にも慣れたところではありますが、ふと思いついて先の春休みから「自分の知らない弘前」の開拓を進めています。とはいえ、何かイベントへの参加や遠出をするわけではなく、市内のカフェや公園を訪問するといった呑気な開拓です。たとえば「(もし) 東京から遊びに来た観光客だったらどんな店に行くだろうか」という視点で選択して、普段は行かな

編集後記

いような喫茶店やメニューにも挑戦しています。11年も住んでいると街の様子は大体分かったと思ってしまうのですが、まだまだ知らないスポットがあることを面白く感じています。また、自分の好みなるものも結構変わるのだなという発見もありました。

新入生の皆さんにはぜひ弘前の街をそぞろ歩きし、建物や景色、美味しいご飯、木々や自然、等々、多くの魅力に触れていただければ幸いです。また上級生の皆さんも、新入生のつもりになって歩くことが街や自分を再発見する契機になればと思います。

(人文社会科学部 日比野愛子)



弘前大学生協新生向け講座 「学びと体験・出発講座」

学びと体験・出発(たびだち)講座(以下、まなたび講座)は、2018年にスタートした新生向けの体験型講座です。社会に出る前にチームや社会人との関わりの中から、経験や体験を積むことで、「自分らしさ」「自分の強みや弱み」を再確認し、自信をもって次のステップ(2年生以降の大学生活や、社会)に進んでほしいという想いから作られました。

講座では、「まなスタ」と呼ばれる弘大の先輩学生(2年生~院1年生まで)合計約40人所属しており、受講生のサポーターとして「まなスタ」自身の経験や成長に繋がっています。

まなたび講座はこれまでで、600人を超える学生が修了しています。

【1年間のプログラムの流れ】



ミュージカル劇団による
スタートプログラム (4月)



ビジネスマナー講座 (5月)



チームによる
アイデア出し (5-6月)



社会人インタビュープロジェクト (6月)
インタビュー記事の作成とプレゼン (7月)



企業とのチャレンジプロジェクト (10-11月)

プロジェクト発表会 (12月)

自身の成長(ポートフォリオ)発表会 (12月)

まなたびプログラム
修了!

「弘前大学で一つでも多くの経験、体験を」

私自身が弘前大学の出身で、高校まででは考えられなかったたくさんの経験をする事ができ、今でもつながりがあるたくさんの友人にも出会えました。今、自身が思うように仕事/人生に励めているのは、大学時代に培われた自己効力感があるからと思っています。

生協で実施している様々な企画や講座で学生と接していると、「だれとも違う強み」を一人ひとりが持っているのに、そのことに気が付いていない、または「何もない」と思ってしまう学生が多くいることに気づき、とてももったいないと感じていました。そこで、どんな自分でも自分らしさを認めてそれが自信につながる、そんな体験を仲間と一緒に出来る講座を実施したい!と考えて、まなたび講座をスタートさせました。

一人でも多くの学生が、「大学で何をしたいかが大切」と、弘前大学で一つでも多くの経験、体験を通して、充実した大学生活、社会へのお出発(たびだち)が出来ることを願っています。

SHAREA 店長 芹田美穂子



弘前大学

学園だより

vol.204 / 2022年6月発行 題字：福田眞作 学長

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長：大橋 忠宏（教育委員会）

委員：日比野愛子（人文社会科学部） 田中 拓郎（教育学部）

丹治 邦和（医学研究科） 佐藤ちひろ（保健学研究科）

萩原 正規（理工学研究科） 吉仲 怜（農学生命科学部）

高松 達典（学生課） 坂本 桃子（学生課）

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索
👉

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp